

第14回 日本外来臨床精神医学会

The 14th Annual Meeting of The Japanese Society of Clinical Outpatient Psychiatry (JCOP)

学術大会 プログラム

日時 ● 平成26年2月16日(日)

場所 ● 東京医科歯科大学
歯学部特別講堂(歯科棟南4F)



日本外来臨床精神医学会

The Japanese Society of Clinical Outpatient Psychiatry
(JCOP)

精神科専門医制度による研修ポイント(C群)を申請致します。試験合格証をお持ちの方は、必ずご持参下さい。
～ JCOPはC群：4時間以上40点～

JCOP 第14回学術大会 参加申込書

〆切：平成26年2月5日水

お申込み先 FAX：043-301-0821

又は E-mail：jcop-office@otsuka-clinic.org

平成 年 月 日

① ご氏名 ＜会員（医師）・非会員（医師）・医師以外＞

ご所属

ご連絡先住所 〒

TEL：

FAX：

② ご氏名 ＜会員（医師）・非会員（医師）・医師以外＞

ご所属

ご連絡先住所 〒

TEL：

FAX：

③ ご氏名 ＜会員（医師）・非会員（医師）・医師以外＞

ご所属

ご連絡先住所 〒

TEL：

FAX：

情報交換会 ご出席（ 名） ・ ご欠席
（必ずどちらかに○をお願いします）

※当日、このプログラムをお持ちください。参加費は当日で結構です。
また、当日のご入会も受け付けております。

JCOP 理事長挨拶

理事長 鈴木 二郎

今般、本学会第14回大会が、市橋秀夫会長のもと本会場で開催されることになった。例年東京医科歯科大学に御厄介になり、医学部講堂をお借りしていたが、今年は、工事中とのことで、歯学部講堂を拝借することになった。あらためて東京医科歯科大学当局の御好意に御礼申し上げる。

本学会大会は、毎年大会会長それぞれのお考えで優れたテーマの下、素晴らしい独自の成果を上げてきた。本年は、市橋会長の「本学会は症例に基づく臨床の研究会である」というかねてからのご意見をまさに具現化する学会になりそうである。すなわち大会テーマが「臨床における私の工夫」ということで、第1部「臨床における私の工夫」、第2部「治療の流れの中で」、さらに会長自身の「精神療法とはなにか」講演から構成された。演者の先生たちは、いずれもそれぞれ得意とする専門について話されるが、精神科臨床全般に練達の方々であり、広い視野、深い識見を語られる予定であり、それはそれぞれの先生たちの抄録を瞥見するだけで十分理解できる。この構成とメンバーから、実に本学会員の日々の臨床に多くの収穫が得られるであろうことを、理事長として確信して疑わない。個人的にも親しい人びとであり、精神科臨床について存分に語っていただき、楽しく会員と話し合っただけのことを私自身心から楽しみにしている。

大会開催のご挨拶

大会会長 市橋 秀夫

大会テーマ 臨床における私の工夫

JCOPは小さな研究会のような学会です。これまで症例検討や臨床的なトピックスを中心に取り上げてきましたが、今回はとくに日常臨床に密着したテーマを取り上げたいと考えました。

「臨床における私の工夫」は書物や論文には書いていないものです。精神科は密室で診療し、他の医師がどのように診療しているのか知る機会が少ない希少な診療科です。薬剤選択や診断、治療アルゴリズムなどの情報を得ることは可能ですが、診察の大部分を占める問題については各自の工夫に任されているのが現実です。

たとえば、精神科はドクターショッピングが多い診療科ですが、それを患者に責を帰するだけではすまないでしょう。初診のみで二度と来ない患者さんは結構多いものです。精神科は継続的な治療を前提する診療科です。初診診察後に次に再診に来てくれるかどうかは治療に期待を持ち、診察に信頼を寄せている確かな証拠でもあるのです。二度と来ない患者さんは診察で大きな失望を味わっているに違いありません。

近年は医療合理化の影響もあって、パソコンの画面しか見ない精神科医も多いと聞きます。説明なく診断を下し、極端かもしれませんが、たとえば「うつ病ですね。この薬を飲んで下さい」とすぐに処方する医師もあると聞いています。それも結構誤診が多いのです。

シンポジウム第一部は「初診時診療で行うこと」です。

初診はどのように進めるべきであるのか、説明はどのように行っているのか、初診での処方の原則は何なのか、薬の説明はどのように行っているのか、病名の告知はどのように行っているのか(行っていないのか)、診断はどのように思いつくのかなど山積する疑問があって、どこにも正答がないように思えるところに各人の工夫があるのだと思います。

シンポジウム第二部は「治療の流れの中で」です。

通院を維持するためには多くの工夫を私たちはしています。治すためには通院を続けていただかなければなりません。患者さんが「ここに来てよかった」という気持ちをもって帰られるように私たちはさまざまな工夫をしているでしょう。やたらと話が長い患者さんにどうやって切り上げたらよいのか、怒りを向ける患者さんにどう対応するのか、障害に起因する生活上困難に対してどのような助言を行っているのか、「もう生きられない」「必要とされなければ生きられない」という絶望や無力感にどう対応するのか、服薬コンプライアンスを高めるには、臨床のたとえ話や小精神療法はどのように行っているのか、などなど臨床の現場で直面する問題をシンポジストや参加者に討論していただきたいと思います。

会長講演は「精神療法とは何か」です。

ここで扱う問題は50分単位の本格的な精神療法ではなく、通院精神療法で行える小精神療法です。「精神療法とは何か」から始まって、各障害別にそのポイントを述べようと思います。

第14回 日本外来臨床精神医学会(JCOP) 学術大会(2014)

日 程：平成26年2月16日(日) 10:00～17:00(受付開始 9:30より)

会 場：東京医科歯科大学 歯学部特別講堂(歯科棟南4階)
〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45

大会会長：市橋 秀夫(市橋クリニック 院長)

大会副会長：市川 光洋(光洋クリニック 院長)

実行委員会委員：

赤穂 理絵、浅川 雅晴、五十嵐 良雄、石山 淳一*、市川 光洋、
海老沢 佐知江、大塚 明彦*、里村 淳、紫藤 昌彦、鈴木 二郎*、
砂山 秀次郎、高沢 悟、藤本 英生、前久保 邦昭、松下 昌雄*、
山田 和夫 (敬称略)

(*オブザーバー：JCOP 理事長、副理事長、顧問)

参加費：会員医師 10,000円
非会員医師 12,000円
医師以外 5,000円

情報交換会費：5,000円

会場のご案内



会場までのアクセス

■ JR 線

御茶ノ水駅下車(御茶ノ水橋口より)
 徒歩5分

■ 地下鉄

御茶ノ水駅下車(丸の内線)..... 徒歩2分
 新御茶ノ水駅下車(千代田線).... 徒歩10分

■ バス

● 東43系統 都バス(荒川土手操車場—東京駅北口間)
 御茶ノ水駅前下車

● 茶51系統 都バス(駒込駅南口—御茶ノ水駅前間)
 御茶ノ水駅前下車

学術大会プログラム

メインテーマ

「臨床における私の工夫」

総合司会：赤穂 理絵（東京都立駒込病院 神経科部長）
浅川 雅晴（浅川クリニック 院長）

理事長あいさつ 鈴木 二郎（鈴泉クリニック 所長） 10:00～10:05

Opening Remarks 市橋 秀夫（市橋クリニック 院長） 10:05～10:10

シンポジウム1 10:10～11:40

座長：紫藤 昌彦（紫藤クリニック 院長）

「初診時診察で行うこと」

S1-1 初診時診察で私が心掛けていること 10:10～10:40

中安 信夫（医療法人原会原病院 顧問）

S1-2 一精神科医の40年の歩みを振り返ってみて 10:40～11:10
——開業医のパーソナリティ障害論、神経症論

里村 淳（富士見メンタルクリニック 院長）

S1-3 気分障害者の初診時の私の説明 11:10～11:40

大塚 明彦（大塚クリニック 院長）

代議員委員会・総会 12:00～12:30

会長講演

13:00～14:00

座長：鈴木 二郎(鈴泉クリニック 所長)

「精神療法とはなにか」

市橋 秀夫(市橋クリニック 院長)

シンポジウム2

14:10～16:40

座長：海老沢 佐知江(アルバメンタルクリニック 院長)

「治療の流れの中で」

S2-1 統合失調症と広汎性発達障害(自閉症スペクトラム障害) 14:10～14:40

広沢 正孝(順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 教授)

S2-2 パーソナリティ障害、気分障害における自助努力への工夫 14:40～15:10

前久保 邦昭(前久保クリニック 院長)

S2-3 外来臨床における『雑談精神療法』 15:10～15:40
— 神経症圏を中心に —

市川 光洋(光洋クリニック 院長)

総合討論 15:40～16:40

Closing Remarks 市川 光洋(光洋クリニック 院長/次回大会長)

16:50～17:00

情報交換会：ホテルオークラメディコ

17:30～

司会：石山 淳一(帝京大学 客員准教授)
藤本 英生(青葉クリニック 理事長)

抄 録

中安 信夫

医療法人原会原病院 顧問

本シンポジウムのテーマ「初診時診察で行うこと」に従って、私が心掛けて
いることを述べる。「心掛けている」とは言っても、長年にわたって臨床を
続けているともはや自動的な振る舞いとなっていて一々を意識したものではな
いが、他院から紹介された患者から前医の診察ぶりを聞く機会があるとその違
いを意識させられ、自分の診察の仕方を再認することも多い。この機会に振り
返ってみることにするが、自分としては特別な工夫があるわけではなく、きわ
めてオーソドックスな診察の仕方であると思う。そのいくつかを箇条書きにし
て、当日は今少し詳しく述べてみたい。

1. 応対に際しては居住まいを正す。
2. 主訴すなわち患者の苦悩は奈辺にあるかを把握するように努め、把握でき
たと思えば患者にその旨を伝え、共有する。
3. 主訴とは別に、状態像を精細に特定するように努めるが、これは表出のつ
ぶさな観察と個々の体験・行動症状の同定に基づくものである。
4. 診察をした結果、ことに状態像の特定については平易な言葉で患者に伝え、
それに応じた治療を施すことを伝える。疾患診断の内容は統合失調症ない
しそれに準じる精神病性障害の場合には必ずしもそのままに伝えることは
せず、患者との治療契約は時に pseudo-informed consent となる。
5. 薬剤は一般に少量から、また患者の状態像や処方する薬剤の効果や副作用
を勘案して決める。次回来院日（どんな疾患であれ再診は1週間後とし、時
に3～4日で再診させる）までの日数しか処方しない。

第14回日本外来臨床精神医学会学術大会 後援団体一覧

日本精神衛生学会

公益社団法人日本精神神経科診療所協会

公益社団法人日本精神科病院協会

日本外来精神医療学会

日本精神保健看護学会

一般社団法人日本臨床心理士会

一般社団法人日本作業療法士協会

公益社団法人日本精神保健福祉士協会

一般社団法人東京精神神経科診療所協会

一般社団法人千葉県精神神経科診療所協会

一般社団法人埼玉精神神経科診療所協会

第14回日本外来臨床精神医学会(JCOP)学術大会

発行：日本外来臨床精神医学会

〒263-0031 千葉県千葉市稲毛区稲毛東3-20-11-3F

TEL&FAX：043-301-0821

HP：http://jcop.xsrv.jp/

出版： 株式会社セカンド
http://www.secand.jp/

〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025



日本外来臨床精神医学会